

岩国市立修成小学校児童が薪割り体験しました！

令和5年2月24日(金)、岩国市周東町の森林体験交流施設丸太村にて岩国市立修成小学校の5、6年生3名が、まき割りや木工作業を体験し、森林の大切さを学びました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「森林・里山づくり研究会」が実施したものです。

まず、学校の樹木用に樹名板を作成しました。あらかじめ、樹木名を調べ、デザインも考えており、樹名板に文字や絵を書きました。思い通りの作品になったと思います。

次にまき割りと丸太切りを体験しました。まき割りでは、あまり力をかけずに簡単に割ることができる専用の道具を使う方法と、おのだけで割る方法を試しました。

最後に、木工作として、うさぎの形をしたプランターを作りました。指導員に手伝ってもらいながら、くぎ打ちやジグソーを使い、木の板からウサギの形をつくっていきました。

「森林・里山づくり研究会」では、今後もこのような森林体験学習を継続し、地域の子どもたちの森林に対する意識を一層高めていきたいとしています。



丸太切り



薪割り



うさぎプランター



完成